



稀啓其後は何事

沙汰いたして居

事ありお尋ねは

はありませんか。

友人藤本克雄

氏を所紹介由

事あり。

同氏は愛知管



同氏は要として管の

子の方であります。

そして、飛来、心競

ま吹てきつて行か

いこむふ堅い奔

願は抱ふ人こそ持

つて居られませう。

既に書かれたもの

も二三ありませう。

即ち今迄しけれ

ば、早稲田文庫に

ば、早稲田文藝に
て、表して、た
また、存心
た、二角、
了、九、一、さ、れ、稿
に、執、り、批、評、を

と、こ、な、り、あ、ら、
つ、た、り、ま、り、た、り、
た、り、お、も、た、り、
は、な、り、あ、ら、
に、依、り、こ、り、こ、り、

にまはしつて、
に徳りこびりこま
も方方しこき解
藝術にいたこと
はふし決らああ
りひひたああ
あ、あ、あ、あ、
多た中攻入
りまけはま
我にお願ひ也
んやああ

二物
二物

大正二年十二月十日

王聲

本回字多

田中王堂手東

中岡久松宛



本間文庫

文庫 14

C101

